

内容:

- ・ 連続テレビ小説「純と愛」
- ・ レストランレベニュー・マネジメント

中国なう

- ・ 中国 B.M.C.

編集後記

全国B.M.C.(全国宴会支配人協議会)からの月1回の通信です。

連続テレビ小説「純と愛」

10月1日から始まったNHKの朝の連続テレビ小説「純と愛」はご覧になっていますか。見所を、ネタバレにならない程度にご紹介します。ご覧になっている方はお分かりのように、一つは夏菜演じる主人公の「純」という女性の熱血ぶりです。お客様が笑顔で帰る「魔法の国」をつくりたいという言葉が印象的です。(制作側はそんなつもりで作ってはいないと言うかもしれませんが)毎回、主人公の純が「何か」事件をしでかします。本人がお客様のために良かれと思

ってした行為が原因でいろいろな波紋を呼んでしまいます。これらの事件はホテルの現場で実際によくあるケースです。自分ならどうするだろう。部下が同じ様なことをしたらどう言うだろう。そんな風に観ると面白いですよ。もう一つは、結婚式です。ホテルと言えば、宿泊、料飲、宴会、ブライダルといろんな部署がありますが、今回は途中で結婚式が取り上げられています。それも、シビルウエディングです。BMCの会員の中にもシビルウエディングミニスターの資格を持つ

た方が数名いらっしゃいますので。今回の朝の連続テレビ小説「純と愛」が、ホテルを利用するきっかけになり、ホテルで結婚式をするきっかけになり、シビルウエディングの名が広まり、ホテルで働きたいという若者が増えるきっかけになればいいなと思っています。みなさんで是非受信料を払ってご覧ください。

全国B.M.C.会長
伊藤 保

レストランレベニュー・マネジメント

10月より週刊ホテルレストランで連載が始まりました。タイトルは「目から鱗のレストランレベニュー・マネジメント」です。私は、ホテル学校を出たわけでもなく、海外のホテルで研修したわけでもありません。つまり専門的な勉強はしていません。諸先輩から教わったことが私の知識の基礎です。数年前、宿泊のRevPARに当る指標を探していたところ、RevPASHという単語が見つかりました。これを自分自身が理解できるようになるまで相当の時間を費やしました。基礎がなければ今回のようなところまで辿り着くことはできなかったと思います。

今回、レストランレベニュー・マネジメントに着目したのは、近年のホテルのあり方に疑問を感じたからです。

宿泊部門と比較して、利益率の悪い料飲部門は、ホテルを経営するオーナーから見るとお荷物と感じています。新しく開業するホテルのほとんどがバジェットと呼ばれる宿泊に特化したホテルです。

私は、私を育ててくれた先輩方に恩返しをしなければなりません。恩返しの方法は、私が育てていただいたように、次の世代を育てることです。私は宿泊部門も経験しましたが、ホテルの面白さを覚えたのは宴会料飲部

門です。ホテルに就職を目指す人の多くは宿泊部門を希望します。何故でしょうか。面白さが分からないからです。人件費が削られ、少ない人数で休みもなく働かされるからです。料飲部門はアイデア次第でまだまだ稼げるセクションです。但し勘に頼ってはいけません。数値を分析することで、改善できる場所を見つけることができれば、戦略はより有効なものになります。

是非、若手にも読んでいただきたいと思います。

全国B.M.C.会長
伊藤 保

全国 B.M.C.

2011-2012 年度会長

ホテルグランヴィア広島
伊藤 保

〒732-0822
広島市南区松原町
1 番 5 号

TEL:
082-262-1111

FAX:
082-262-4050

E-MAIL:
t_ito@hgh.co.jp

Web サイト

URL:
<http://www.e-bmc.com/>

中国なう

中国 B.M.C.

皆さんこんにちは、秋シーズンも本番となり、忙しい毎日を送られていることと存じます。中国B.M.C.の瀬島です。

月日の経つのは早いもので前回載せていただいてから早や1年。1月名古屋ANAクラウンプラザホテルでの冬季総会・若手コンペティション、7月ホテルメトロポリタン盛岡での夏季研修会がまるでつい先日のように思われます。そして、来年の沖縄冬季総会まであつという間のように感じられることでしょう。

何かいい良薬の一つでもありましたら教えていただければ有難いです。

また、近頃気になっていることがもう一つあります。それは若いスタッフの離職が増えてきているということです。これは9月の編集後記に伊藤会長が書かれていたことと大いに関係があると思いますが、今後の業界各社の将来、またB.M.C.活動の将来を考えるうえで憂慮すべき問題だと思えます。幸いにして当地区にも若手コンペティションに出場して

編集後記

FaceBook をみていると「今日の金言」なるものを良く見かけます。偉人の言葉や、宗教家の言葉が多いです。私は無宗教ですが、仏教の言葉が好きです。私も何かそういう言葉を残したいものですが、まだまだ未熟な人間には無理ですね。

レストランレバニユール・マネジメントを書いたきっかけですが、連載記事中に書いてありまように、若い人たちの

先月は週末毎に襲来してきた台風により、地区によっては多大な損害・被害が出たところもあるように聞いております。幸いにして当地区は“晴れの国”と呼ばれるだけあって少し多目の雨が降った程度で済みました。損害・被害を受けられた皆さまがたには、中国B.M.C.会員一同、心よりお見舞い申し上げます。

ところで、前回も述べさせていただきましたが、全国的な流れとなっている会員の減少傾向、皆様方の地区ではいかがでしょうか。中国B.M.C.におきましても、ここ

感動賞を頂いた有望な若者もおりますので、そのDNAを会員各社にどんどん広げていくことが急務と考えているところです。

四国の小寺会長は退任されましたが、中国B.M.C.と四国B.M.C.とで交互に開催している合同研修会は今後もずっと続けていく予定です。

本年の研修会は、全国B.M.C.副会長(東北復興特名委員長)東北B.M.C.会長 鈴木 忠美氏を高松の地にお迎えし、11月21日(水)

10年で会員数が半減となっているのが現状です。退会の理由としては、スタッフが少なくなり、思うように例会・研修会へ参加することができない。また、会社から経費削減を厳しく言われ、参加を見送らざるをえない等です。全国総会、研修会へ参加する度にいつも、掛かった経費以上のお土産を会社へ持って帰れるような研修会を開催すればいいとよく聞きますが、執行部の力不足からか力及ばず・実結ばずということが実情です。各地区の皆様、即効性のある特効薬などないとは思いますが、

に開催予定です。皆様方の参加をお待ち申し上げます。

私も本年が会長職2期4年の最期の年となります。来年1月沖縄で皆様にお会いできるかどうかは分かりませんが、山陽路にお越しの節には是非お立ち寄りください。心よりお待ち致しております。

中国 B.M.C.
瀬島 宏典

将来の活躍の場を守りたかったからです。

高卒で入ってきた子も、いずれ所帯を持ちます。妻や子を養っていかなければいけません。彼らの場所を守るのは我々の使命です。そして、若いうちから料飲の計数について勉強する機会を与えてあげたいと思います。

目標は料飲部長ではなく総支配人であって欲しいものです。

■「なう」の予定

10月・・・中国(今回掲載)
11月・・・九州(次回掲載)
12月・・・名古屋
1月・・・北陸

では、九州の梅田会長、原稿をお待ちしております。